



今年度も無事に終わりました。感謝！ ～終業式・離任式行われる～

(3月22日(月) 終業式講話より)



久しぶりに体育館で皆さんに向かってお話ができることに、まず嬉しさを感じています。

さて、皆さんは「塞翁が馬」という故事をご存知でしょうか。古代中国で国境の近くの塞(とりで)の近くに住んでいた老人(翁)が主人公です。ある時、彼は近所でも評判の良い馬を持っていたのですが、ある時馬が蜂に刺され、驚いた馬は家を飛び出しどこかに行ってしまった事件が起きました。世間の人にはほんとに運が悪いことだと同情しましたが、当の本人は、「いや、これがきっかけで良いことが起こるかもしれない」と我慢していました。しばらくすると、その馬が戻ってきました。驚いたことに、1匹の白い立派な馬を連れて。世間の人にはうわさしました。「こんな幸運なことはあるか」と。しかし、老人はこう言いました。「いや、これがきっかけで悪いことが起こるかもしれないぞ。」その予感は当たりました。彼のかわいがっていた息子が、白い馬に乗っていた時に落馬して足を怪我してしまいました。世の中の人には「なんて運が悪い」と同情します。しかし老人はなんて言ったか、みなさんはもうわかりますね。「いや、これがきっかけで良いことが起こるかもしれない」と我慢をしていました。すると、隣の国と戦争が起きました。若い男はみな兵士にとられ、戦死しました。ところが、老人の息子はけがのために兵役を免除され無事でした。そして戦争が終わり、老人と息子は幸せに暮らしました、という話です。

つまり、いたずらに一喜一憂せず、悪いことが起これば我慢して次の機会に希望をつなぎ、良いことが起きても必要以上に浮かれず気を引き締めていきなさいという格言でもあります。

新型コロナという悪いことが起きて、世の中は悲しみに包まれました。皆さんもさまざまな苦しい経験をされたと思います。またその一方で、みなさんにとって「塞翁が馬」は何だったのでしょうか。逆境だったからこそ頑張ったり、知恵を出して工夫して良かったこと、満足したことはなかったのでしょうか。日頃の友人関係でも部活動でも生徒会活動でも、皆さんを見てると私は、それをいろいろなところで感じています。ぜひその経験を大切にして、希望が溢れる来年度を作り出してほしいと願っています。

最後に、新型コロナウイルス感染症の第3波も峠を越えてよかったかに見えますが、「塞翁が馬」を応用しましょう。長野地域では依然として「レベル4」であり、まだまだ決して油断はできません。しばらくは同じ状態が続くのだと思って、春休みは気を引き締めてください。 終わります。



年間皆勤賞 26 名を表彰



生徒指導係より春休みの注意



離任の先生方へお花贈呈



ありがとうございました！

離任される先生

教科	氏名	勤続年数	次年度(新任校など)
地歴公民	イツカ 飯塚 和幸	1年	上田千曲高校(定時)
数学	ヤマウラ 山浦 良人	10年	小諸高校
理科	アカハネ 赤羽根 弦	7年	野沢北高校
音楽	ヤナギサワ ミサト 柳澤 美里	2年	退職・県外の中学校へ
美術	ササイ ユカリ 笹井由佳利	6年	退職・本校で講師継続
英語	アサキ 阿部 芳明	5年	退職・本校で講師継続
養護	ホシノ アリカ 保科 亜里香	2年	岩村田高校
数学	タムラ クニアキ 田村 国秋	7年	退職

(裏面に続く)

理数系サークルが小学生と理科実験 ～「科学実験教室」大盛況！～

3月23日（火）は、春休みに入った小学生たちに高校からのプレゼント。本校の理数系サークルが、立科町児童館の小学生に、理科の楽しさを知ってもらう目的で、立科町屋内運動場にて出張「科学実験教室」を行いました。集まった子どもたちは約50人。学年別に整列し、さあはじまりはじまり。

登場したのは本校理科のH先生とN先生。部員の生徒と数学の先生は補助にまわりました。まず初めに、火山のしくみについて。身近な浅間山や富士山を例にとり、なぜ噴火するのかを図解で説明しました。また、H先生は身振り手振りと発問などを巧みに駆使し、一瞬でも飽きさせない見事な展開で、ちびっ子の心をわしづかみ。

さあ、お次は噴火のメカニズムをコーラとメントス（メンソール入りキャンディー）を使い実演です。外に出て、コーラのペットボトルにメントスを入れると、噴水のようにコーラが噴出しました。「おれ、コーラ大好き～！」と走り回る低学年児。子どもたちは歓声をあげて大喜びです。

そのあと施設に戻り、H先生は米村でんじろう先生から直接教えてもらったという「空気砲」を、小学生に伝授しました。これも、子どもたちは大喜びでした。

最期に、児童館の齋藤館長様をはじめとする職員の皆様、本日はこのような楽しい機会をつくっていただき、ありがとうございました。



困ったお話(その31) (命がけの山菜取り)

春爛漫の季節になった。この季節は山が私を呼んでいる。私の好きな山菜を季節順に羅列してみよう。フキノトウ、ノビル、ノカンゾウ、コゴミ、タラの芽、コシアブラ、山ウド、ウコギ、ワラビ、ウドブキの順だ。

そしてフィナーレを飾るのはネマガリダケ。高い山に密生しているその藪の中へ、ヘルメットをかぶり飛び込むのだ。思うように進めず、しなった竹は容赦なく顔や体を鞭打つ。また、藪の中に入ると方向感覚が失われ、下手をすると遭難する。“病膏肓に入る”状態の私は、それでも顔から血を流しながら採った。

ある時、採ったネマガリダケを袋にまとめ置いて、身軽になった私はさらに奥へ進んだ。充分採ったので戻ってくると、その袋が半分かじられていた。

「やばい！ 熊だ。歌を唄って存在を知らせなければ。」 危機にテンパる私のとっさに口から出た曲は、チェリッシュの『テントウムシのサンバ』だった。

「あなたとわたしが、ゆつめえのお国い～ も～りの小さな教会でえ～」 人気のない深山幽谷に、おやじの間の抜けた歌声がこだました。

そして幸運にも命の危機を脱し、無事に生還できた。



鯖缶入りのみそ汁は最高だ

「これでわかった。熊はチェリッシュが苦手だ」。妻に報告したら塾居を命じられた。